



平成24年度文化芸術創造都市モデル事業に関する成果報告書

2013年3月28日

作成：別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会

目次

1. 事業概要	P3
2. 実施事業について	P3
2-1： ベップユケムリ大学	P4
2-2： 欧州創造都市視察	P12
2-3： 創造都市研究会	P22
2-4： 創造都市連携事業紹介誌発行	P24
3. 事業評価	
3-1： バランススコアカード	P29
3-2： 実行委員会による事業実施に関するアセスメント（自己点検）	P30
3-3： 評価委員会によるレビュー（分析・評価）とそれに基づく意見表明（是正勧告等）	P35
3-4： 事業統括	P35

1. 事業概要

別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会（以下、実行委員会）は、文化芸術の創造性による旧来型大型温泉地・別府市の新たな魅力創出と、地域特有の資源の再発見による活性化と人材育成事業を通じて、「観光地型・文化芸術創造都市」としての新しい別府を世界に発信していくことを目的に、平成24年度「文化芸術創造都市モデル事業」を実施した。

今年度は、「観光地型・文化芸術創造都市」を推進し、全国のモデルとなる事業に育てていくために、下記3点を重点課題として取り組んだ。

●政策提言　：　別府市だけではなく、大分県全体に文化芸術創造都市の考え方を広げ、大分県の政策の柱として文化を位置づけることで、大分県全体としての創造都市実現を目指すため、大分県知事、行政職員、経済界と共に創造都市先進地への視察を行い、現地関係者と密な交流を図る。

●人材育成　：　中核都市となる別府市の他にも、県内他地域での文化芸術による地域再生事業の芽や人材を育て、具体的な事業の実施を促す。

●連携モデル構築　：　大分県観光の中心地、別府市を着地型都市として県内他地域との広域な連携を促進させるために、冊子を発行し各地域での文化芸術による地域再生の取り組みを掲載、広く紹介するとともに、これまでの実績と成果を報告し、県内他地域関係者や全国に向け発信する。

2. 実施事業について

本年度、実行委員会は当初5つの事業を予定していたが、最終的に創造都市モデル事業記録集発行を行わず、それ以外の4つの事業の実施となった。創造都市モデル事業集発行ができなかった理由は、他の事業に人的コストがかかったことと、また当初の想定よりも収入額が集まらなかったことである。今年度は当事業内での制作は断念したが、来年度に別予算を立てて制作をしていきたいと考えている。

ベップユケムリ大学事業

実施期間：2012年4月1日—2013年3月31日

事業概要

ベップユケムリ大学理念

「別府を大切に思う仲間を増やし、共に、魅力ある地域づくりを行う」

ベップユケムリ大学は「観光地型・文化芸術創造都市」を推進していく人材の育成を目的に、多様な団体が連携し、講座を開講する事業である。講座は、主に中心市街地のplatformで開かれ、日常的にまちの中で文化芸術・地域資源・コミュニティビジネス・福祉・女性の社会進出など学ぶ機会を創出している。参加団体は、NPO法人 別府八湯トラスト、APUさくらまちラボ、NPO法人 BEPPU PROJECT、NPO法人 ハットウ・オンパク、NPO法人 ベップ未来塾、NPO法人 自立支援センターおおいたに加え、今年度より、社団法人 別府市観光協会も参加し、計7団体となった。今年度は下記の期間で全58講座を実施した。

【開催日】 2012年4月1日～2013年3月31日 全58講座

【開催場所】 platform01、platform02、platform03、platform05、サロン岸ほか

【対象参加者】 学生、地域住民など創造都市の現場で活躍する人材

【参加者数】 1230名

参加団体紹介

アート学部

NPO法人 BEPPU PROJECTが運営。主に文化芸術に関する講座を展開。座学やワークショップを通じて、アートの歴史や楽しみ方について学び、体験する講座を行う。今年度は特に、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」を軸に、創造都市や芸術祭について講座を行った。(http://www.beppuproject.com)
実施講座：「アートの時間」／「WEEKEND WORKSHOP」／「SELECT BEPPU WORK SHOP」など

別府八湯お宝学部

NPO法人 別府八湯トラストが運営。別府の現有文化遺産や資源について、今年度は人材にフォーカスして学び、地域資源再発見の促進につなげる講座を開講した。(http://homepage3.nifty.com/hatto-kk/trust)
実施講座：「お宝な人登場シリーズ」

地域探検学部

NPO法人 ハットウ・オンパクが運営。地域の文化資源の活用方法を考え、コミュニティビジネスの立ち上げなど新しい産業創出につなげる講座を行った。(http://www.onpaku.jp)
実施講座：「オンパクMBA取得講座」

教養部

立命館アジア太平洋大学が運営。専門家を招聘し、本の書評と参加者のディスカッションを通して質の高い学習の場を提供する予定であったが、今年度は講座開講がかなわなかった。

ユニバーサルデザイン学部

NPO法人 自立支援センターおおいたが運営。障害を持つ方々の視点から商品開発の必要性や社会にあるバリアを体験するワークショップなどを行った。 (<http://www.jp999.com/333>)
 実施講座：「車椅子で行こう♪B級グルメ！」 「みんなで温泉に行こう！」 など

女子学部

NPO法人 べっふ未来塾が運営。女性の視点から様々な活動を別府市内で行っており、女性ならではの講座を開講した。

実施講座：「フィジオロジー講座」 / 「ベップユケムリ大学 omachi de omatsuri 文化発表会」

ボランティアガイド養成学部

社団法人 別府市観光協会が運営。ボランティアガイドの養成、レベルアップを目的とし、必要な知識を学ぶための講座を開催した。

実施講座：「別府八湯語り部の会」

事業内容

[BP] : NPO法人 BEPPU PROJECT / [教養] : APUさくらまちラボ / [女子] : NPO法人 べっふ未来塾 / [トラスト] : NPO法人 八湯トラスト / [オンパク] : NPO法人 ハットウ・オンパク / [ユニ] : NPO法人 自立支援センターおおいた / [ボラ] : 社団法人 別府市観光協会

実施日時	運営者／テーマ	参加者	内容
2012/04/18 (水) 19:00 - 20:00	[BP] メタルの生み出すイノベーション	35名	都市再生、経済的継続性、環境問題などに関するプロジェクトを実施するイギリスの団体Metalのディレクターによるトーク。
2012/05/11 (金) 18:00 - 19:30	[BP]アートの時間：別府で芸術祭をおこなうこと ー新しい何かが始まる予感ー	25名	「混浴温泉世界2012」総合ディレクター山出淳也氏を講師に迎え、芸術祭の背景について学ぶ。
2012/05/12 (土) 13:00 - 15:00	[BP]SELECT BEPPU WS	4名	不要なはぎれをつかってコサージュを制作するワークショップ。
2012/05/13 (日) 13:00 - 16:00	[BP]WEEKEND WORKSHOP	5名	池田ひとみ氏を講師に迎え、編み物の作品を作り、まちなかに配置して表現するワークショップ。
2012/05/19 (土) 10:30 - 12:30	[女子]フィジオロジー講座	15名	むくみ解消ケア講座と、女子力アップ講座。
2012/05/27 (日) 17:00 - 19:00	[BP]アートの時間：WALL ART FESTIVAL 別府報告会	12名	インドの小学校で実施された「WALL ART FESTIVAL 2012」という芸術祭の報告会。
2012/06/01 (金) 19:00 - 21:00	[オンパク]MBA取得講座	12名	まちづくりの経営力をつけるための連続講座。

実施日時	運営者／テーマ	参加者	内容
2012/06/08 (金) 18:00 - 19:30	[BP]アートの時間：大分でアートをやる	37名	裏正亘氏を講師に、大分でのアート活動に関するトークを行った。
2012/06/09 (土) 13:00 - 15:00	[BP]SELECT BEPPU WS	6名	「風流うちわ」の制作ワークショップ。
2012/06/10 (日) 13:00 - 16:00	[BP]WEEKEND WORKSHOP	6名	渡辺美帆子氏を講師に迎えて、演劇の手法を使い、街中を観察するワークショップ。
2012/06/15 (金) 19:00 - 20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	20名	別府大学の段上達雄氏を講師に向かえ別府の竹細工について学ぶ。
2012/06/20 (水) 19:00 - 20:30	[BP] アートの時間: 「RAINBOW JAPAN2012 報告会&激励会」	18名	遠藤一郎氏をゲストに向かえ、進行中のプロジェクト「RAINBOW JAPAN」に関する報告会を行った。
2012/06/21 (木) 19:00 - 21:00	[オンパク]MBA取得講座	10名	まちづくりの経営力をつけるための連続講座。
2012/06/22 (水) 19:00 - 20:30	[トラスト] 別府八湯お宝学部	27名	中村珈琲店 店主 中村光氏をゲストに向かえ別府の雑学について学ぶ。
2012/06/24 (日) 14:00 - 15:30	[BP] アートの時間: 「混浴温泉世界アーティストトーク小沢剛」	35名	「混浴温泉世界2012」のアーティスト小沢剛氏をゲストに迎えたトーク。
2012/07/06 (金) 19:00 - 21:00	[オンパク]MBA取得講座	6名	まちづくりの経営力をつけるための連続講座。
2012/07/07(土) 13:00 - 16:30	[ユニ]まちなか散策「B級グルメを堪能しよう！」	25名	参加者が車イスに乗り違った目線で街を散策し、B級グルメを堪能する
2012/07/11(水) 18:00 - 19:30	[BP] アートの時間: 「混浴温泉世界アーティストトーク廣瀬智央」	14名	「混浴温泉世界2012」のアーティスト廣瀬智央氏をゲストに迎えたトーク。
2012/07/13 (金) 19:00 - 21:00	[オンパク]MBA取得講座	6名	まちづくりの経営力をつけるための連続講座。
2012/07/13 (金) 18:00 - 19:30	[BP]アートの時間：コンテンポラリーダンスはおもしろい！	15名	「混浴温泉世界2012」キュレーター佐東範一氏を講師に迎え、ダンスのプロジェクトについて学ぶ。
2012/07/14 (土) 13:00 - 15:00	[BP]SELECT BEPPU WS	3名	背守りでわっぺんを制作するワークショップ。

実施日時	運営者／テーマ	参加者	内容
2012/07/15 (日) 13:00 - 15:30	[BP]WEEKEND WORKSHOP	11名	眞島竜男氏を講師に迎えて、現代美術の手法を体験して学ぶワークショップ。
2012/07/17 (火) 19:00 - 20:30	[ボラ] 「絵はがきの別府」	70名	松田法子氏を講師に向かえた著書「絵はがきの別府」についてのトークイベント
2012/07/20 (金) 19:00 - 20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	40名	温泉Gメン斉藤雅樹氏を講師に向かえ別府の温泉について学ぶ。
2012/07/21 (日) 13:00 - 15:00	[BP]WEEKEND WORKSHOP特別 編なつやすみキッズワークショップ	22名	能楽師の山本章弘氏を講師に迎え、子どもを対象にした能のワークショップを行った。
2012/07/28 (土) 18:00 - 19:30	[BP] アートの時間:イギリスから やってきた!子どもによる子どものためのアート報告会	24名	イギリスで子どものためのアートプロジェクトを行うヘレン・ワード氏による活動報告。
2012/07/28 (土) 10:30 - 12:00	[女子]スペシャルミーティング	10名	おもてなしとデザインについて学ぶ。
2012/08/06 (土) 18:30 - 20:00	[BP] アートの時間:岡田利規 ×pigironトーク	32名	劇作家岡田利規氏と、アメリカのカンパニーpigironによる別府での演劇共同製作についてのトークイベント
2012/08/07 (金) 19:00 - 21:00	[オンパク]MBA取得講座	6名	まちづくりの経営力をつけるための連続講座。
2012/08/11 (土) 13:00 - 15:00	[BP]SELECT BEPPU WS	1名	イラストレーターkana氏を講師に向かえ、キャラクターの刺繍チャームを制作するワークショップ。
2012/08/17 (金) 18:00 - 19:30	[BP]アートの時間:いま、ここでこそ生まれうるもっともおもしろい芸術祭を模索する	26名	「混浴温泉世界2012」キュレーター住友文彦氏を講師に迎え、アートのプロジェクトについて学ぶ。
2012/08/17 (金) 19:00 - 20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	30名	河村建一氏を講師に向かえ別府の温泉とまちづくりについて学ぶ。
2012/08/19(日) 13:00 - 16:00	[BP]WEEKEND WORKSHOP	5名	芝辻ペラン詩子氏を講師に迎えて、コマ撮りアニメをつくるワークショップ。
2012/08/24 (金) 19:00 - 20:30	[トラスト] 別府八湯お宝学部	10名	帯刀和男氏をゲストに向かえ国東の六郷満山三十三カ所霊場巡りについてのトークを行った。

実施日時	運営者／テーマ	参加者	内容
2012/09/07(金) 18:00 - 19:30	[BP]アートの時間：「混浴温泉世界2012」を200%楽しむ方法	29名	「混浴温泉世界2012」総合ディレクター芹沢高志氏を講師に迎え、芸術祭の楽しみ方について学ぶ。
2012/09/08 (土) 13:00 - 15:00	[BP]無印良品×SELECT BEPPU WS	26名	無印良品とのコラボレーション企画。オリジナルのあんどんを制作するワークショップ。
2012/09/09(日) 13:00 -16:00	[BP]WEEKEND WORKSHOP	5名	勝正光氏を講師に迎えて、デッサンをしながらまち歩きをするワークショップ。
2012/09/20 (木) 19:00 - 21:00	[オンパク]MBA取得講座	6名	まちづくりの経営力をつけるための連続講座。
2012/09/21 (金) 19:00 -20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	20名	大山琢央氏を講師に向かえ鳥瞰図に描かれた別府の地図について学ぶ。
2012/09/22(土) 13:00 - 16:00	[ユニ]バリアフリー探検	17名	バリアフリー探検(車椅子体験・視覚障害者体験)を通して、呑み屋さんを巡った。
2012/10/09(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	10名	カナダで活躍するキュレーター原万希子氏をゲストに向かえたトーク。
2012/10/16(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	32名	写真家の石川直樹氏をゲストに向かえたトーク。
2012/10/19(金) 19:00 -20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	30名	山出淳也氏を講師に向かえた「混浴温泉世界」に関するトーク。
2012/10/23(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	11名	「混浴温泉世界」のダンスプロジェクトに関するトーク。
2012/10/26 (金) 19:00 - 20:30	[トラスト] 別府八湯お宝学部	15名	白土康代氏をゲストに向かえ地域の共有財産としてのプランゲ文庫について学ぶ。
2012/10/30(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	25名	「混浴温泉世界」のディレクターと参加者の意見交換会。
2012/11/06(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	50名	都築響一氏をゲストに向かえた別府の観察学に関するトーク。
2012/11/10 (水) 11:00 - 16:00	[女子]ベップユケムリ大学 omachi de omatsuri 文化発表会	100名	ベップユケムリ大学に関連する団体・個人の有志が参加し、それぞれの活動発表や商品販売を行うイベントを開催。

実施日時	運営者／テーマ	参加者	内容
2012/11/13(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	25名	国東半島アートプロジェクトに関するトーク。
2012/11/16(金) 19:00 - 20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	30名	渡辺文雄氏を講師に向かえて別府の温泉と仏像について学ぶ。
2012/11/17(土) 13:00 - 16:00	[ユニ]みんなで温泉に入ろう！	15名	参加者で協力して温泉に入り、理想のユニバーサルデザインの温泉について語る。
2012/11/20(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	26名	美術評論家の福住廉氏による「混浴温泉世界」の作品に関するトーク。
2012/11/27(火) 19:00 - 20:30	[BP]混浴温泉世界ゼミ	24名	ジュディット・ステインズ氏をゲストに迎えた海外レジデンスに関するトーク。
2012/12/14(金) 18:00 - 19:30	[BP]アートの時間：別府の芸術祭でおきたこと	38名	「混浴温泉世界2012」総合プロデューサー山出淳也氏を講師に迎えて、芸術祭をふりかえるトーク。
2012/12/21(金) 19:00 - 20:30	[ボラ] 「別府八湯語り部の会」	30名	別府八湯ウォーク、まちあるきについてアンケート調査結果をふまえて学ぶ。
2013/01/13(日) 11:00 - 15:00	[BP]WEEKEND WORKSHOP	28名	安部寿紗氏を講師に迎えて、オリジナルのお米文字を書き初めするワークショップ。
2013/02/26 (金) 19:00 - 20:30	[トラスト] 別府八湯お宝学部	15名	藤田洋三氏をゲストに向かえ浜脇地区の魅力について学ぶ。

事業の様子（一部）



2012年度の評価と課題

2012年度の講座回数は、全58回、参加者数は1230名となった。目標としていた講座回数(月8回、年間90回程度)よりも少ない開催となってしまったが、参加者数は目標値を達成することができた。

講座の開催頻度は、学部によってばらつきがでており、アート学部の開催が多くなっている。これは参加団体の運営体制や規模が様々であるため集まっているためであり、ベップユケムリ大学の特性上致し方ない点ともいえる。ベップユケムリ大学は、別府市民の学ぶ意欲を高め、創造都市を推進していく人材を育てることを目的としており、様々な専門性をもった団体が連携しながら講座を開いていくという点が重要である。講座開催数を増やし、市民に学びの機会を数多く提供したいという思いは各団体の創意であるが、講

座開催目標数にこだわりすぎることによって団体に負荷をかけ、運営が難しくなってしまうことのないようにしたい。運営基盤が弱い団体であっても、少ない回数でも良質な講座を提供し、集客面・運営面で団体間でサポートしあえるような関係性を育てていきたい。

今年度より参加した別府市観光協会によるボランティアガイド養成学部が、計8回の講座を開講し、265名の参加者をあつめたことは、大変評価したい。多様な団体が魅力的な講座を開いていけるよう、今後も参加団体を増やしていきたい。

集客に関しても学部によってばらつきがあることは、昨年度からの課題である。今年度はフェイスブックによる情報共有の強化に力を入れたが、web環境にない世代へのアプローチは弱いと感じる。

各学部の間での広報協力はもちろんのこと、講座をとりまとめた広報物や、メディアへの告知など、web以外の広報も強化したい。

また、google社と連携した講座の配信を予定していたが、google社の都合により中止となった。今回は断念してしまっただが、今後市外・県外とも積極的に関わりながら講座の内容を深めていきたい。

来年度に向けて

昨年度からの課題ではあるが、参加団体の連携の強化をはかりたい。全団体が参加しての事務局会議はなかなか難しい面もあるが、定期的な会議は引き続き、開いていきたい。各学部の間で広報協力に加え、今年度は共同講座開催も検討したいと考える。集客面、内容面どちらも、団体同士のコミュニケーションが活発になることで解決できることが多いため、事務局機能の強化が重要である。NPOや大学、行政機関など様々な団体が運営しているため、足並みをそろえずらいなど難しい点はあるが、効果と労力をシビアに捉えて、現実的に持続可能な運営方法を探っていく。共同運営であることの利点を再確認し合い、この魅力的なプラットフォームを活かしていきたい。

中心市街地を学びの場として、創造的な都市づくりの基盤をまちなかから作っていくためにも、必ずこの事業を継続し、発展させていきたいと考えている。

欧州創造都市視察事業

～欧州創造都市 スペイン バルセロナ視察報告を中心に～

滞在期間：2012年4月23日(月)—4月25日(水)

滞在先：Barcelona, Spain

事業概要と目的

現在、大分県は平成27年度の完成を目指し大分市内に大分県立美術館の建設を進めている。また県内他地域における文化芸術による地域活性についての議論も始まりつつあり、大分経済同友会を中心とした経済界も文化芸術を中心に据えた創造都市への関心を深めている。海外機関との連携事業を促進させながら、欧州の先進的な各都市へ大分県知事、行政職員、経済界と共に視察を行うことで、現地関係者と密な交流を図り、大分県独自の創造都市の在り方について学び、文化を政策の柱として位置づけることを目的とする。視察報告として、本事業実施者・別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」実行委員会の一員である、大分経済同友会がまとめた「欧州アート・交通まちづくり視察報告書～創造都市に大分の未来を見る～」を別途報告書資料として添付した。視察過程において、4月23日～25日の3日間、大分経済同友会視察団はバスクの食文化の視察のためサンセバスチャンに移動し、NPO法人BEPPU PROJECT職員2名はバルセロナの創造都市を視察するので別行動となったため本報告書では、バルセロナの視察を中心に報告する。

滞在日程と内容

4/20	日本出国。
4/21	ビルバオ到着。世界遺産ビスカヤ橋を見学、LRTを利用し旧市街を視察。磯崎ゲート、スビスリ橋などを見学15世紀からの石造りの建物など現代文化が融合している街並みは趣があり人々でにぎわっていた。
4/22	ビルバオ・グッゲンハイム美術館を訪問。同館の美術館学芸員マリア・ペレス氏より同館設立の経緯、運営、地域コミュニティとの関わり方など美術館の活動とそのノウハウをヒアリングし、意見交換を行った。
4/23	大分経済同友会視察団とは、ビルバオで一旦分かれ、バルセロナへ移動。到着後、バルセロナ市内を視察。
4/24	22日のビルバオ・グッゲンハイム美術館の通訳・現地ガイドとしてお世話になった坂本知子氏（バルセロナで建築を学び、建築関係の雑誌編集などを手がける）の協力をえて、バルセロナ創造都市を視察。ガウディの建築で有名なサグラダファミリアから@22エリアの再開発地区を視察。バルセロナの新古の都市計画、まちづくりを建築的視点から視察。

4/25	旧市街を中心に、Caixa Forum、バルセロナ現代美術館(MACBA)、CCCA、映画センターを視察。MACBAアーカイブセンター館長にヒアリングを行った。
4/26	ナントへ移動し、大分経済同友会視察団と合流。ブルターニュ大公城や旧市街地、ジュール・ヴェルヌ博物館を見学。LRTに乗って移動するなど交通の視点から町を見学。同日夜に、広瀬大分県知事ご夫妻が合流。
4/27	前日の夜に合流した広瀬大分県知事と共にナント市役所を訪問。ナント市助役（国際交流担当）：カリーヌ・ダニエル（Karine Daniel）氏、文化顧問：ジャン・ルイ・ボナン（Jean-Luise Bonnin）氏と面会、交流。ビスケット工場跡地をリノベーションしアートセンターとして活用しているLieu Unique、ユニークな建築が多く建設され、創造産業が集積している再開発地区クリエイション地区、巨大な操り人形や機械じかけの巨大な象などを制作、実演するLes Machinee de L'lleを見学。
4/28	Centre Pompidou Metzを視察。同館の設計者で大分県立美術館の設計者でもある建築家：坂茂氏と面会。同館の特徴、完成までのプロセスなどを伺い、意見交換を行った。パリに移動。
4/29	パリ市内にて自主研修。Palais de Tokyoなどを見学。
4/30	フライト出発まで、パリ市内にて自主研修
5/1	帰国

バルセロナ視察報告

4月24日

バルセロナで建築を学び、建築雑誌やカタログの編集などをされている坂本知子氏に建築的視点からバルセロナの街をガイドいただき、各所を見学。建築物だけでなく、公共交通機関についても調査を行った。ガウディの建築で有名なサグラダファミリア大聖堂が建つエリアから、再開発が進む@22エリアを見学し、創造都市バルセロナの新旧の都市計画を視察することができた。スペイン経済の悪化に伴い、@22エリアでは建設途中のまま工事がストップしているところも多いと伺ったが、あちこちで工事をしているという印象を受けた。



バルセロナのLRT。



申請から約1ヶ月後に発行されるサイクリング利用カード。バルセロナ市内に設置している公共の自転車に乗ることができる。



バルセロナ水道局外観

@22エリアを代表する建築：ジャン・ヌーベル（Jean Nouvel）建築デザイン

バルセロナ水道局内観



上：サグラダファミリア大聖堂下：サグラダファミリアから見える@22エリア



@22エリアでは、大きな道路の真ん中に歩道、ベンチを設置し公園のような空間を作っている

【@22エリア視察の様子】



フォーラム・ビル(2004) ヘル
ツォーク&ド・ムーロン
(Herzog&des Meuron) 建築
設計。



Media TIC
エンリック・ルイス・ヘリ
(Enric Ruiz Gele) 建築設計



@22エリアでは、新規の建物が
とても多かったが、中には古い
建物をリノベーションして活用す
るものもみられた。



@22エリアの街並



地元のラジオ局の建物



大型太陽光発電パネル。三柱の
柱のみで建っており建築的にも
美しい。



フォーラム・ビルの目の前にあ
るネットのようなユニークなデ
ザインの建築

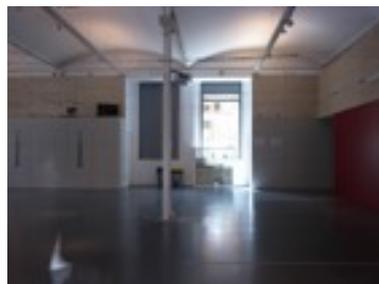
4月25日

Caixa Forum (カイシャ・フォーラム)

かつて繊維工場だったモデルニスマ風の建築をリノベーションしてつくられた美術館。入口部分は、磯崎新の建築。開館時間は、月曜日から日曜日10:00～20:00、土曜日のみ夜22:00まで開館している。入場料無料。各展覧会には必ずキッズルームが併設されており、子どもたちが展覧会の内容について理解を深める、関心をもっと持ってもらえるような仕組み（図工室など）が工夫されている。展示室に加えワークショップルームも設置されており、図工やダンスなどが実施されている。また、同館に併設されているレストラン／カフェは、セルフ式のカフェと食事をとれるレストランの機能が融合しており利用者の目的にあった使用ができる。大変美味しいと評判で、ランチタイムから予約席などで満席となっていた。ベビーカーで子どもと一緒に来ている来場者、打合せを行うスーツ姿の来場者、ベンチで休憩する方など展覧会を見るだけに訪れる場所ではなく、様々な目的で使用されているのが印象的だった。



外観模型



ワークショップルーム



レストラン／カフェ

【キッズルームの様子】



上段2枚の写真は、展示室のキッズルーム。ここには3つの大型タッチパネルが設置され、展覧会の作品について、「これは何?」「このパーツはどこに当てはまる?」などのクイズが出題され、それに答えて作品をより詳しく知ってもらおうというもの。バルセロナでは、子どもは学校でスペイン語とカタルーニャ語を学ぶためタッチパネルは両言語対応となっている。

下段2枚の写真のスペースでは様々な動物の絵が透明のプラスチックに描かれた素材が置いてあり、それらを丸いライトの上に置き、その上にトレーシングペーパーを置いて動物の好きな部分をなぞって紙に写すことができる。様々な動物を組み合わせ、写真右の絵画にあるような不思議な動物を作成することができる。このスペースには監視スタッフや美術館スタッフのような人はおらず、自由に子どもも大人も楽しめるような空間となっていた。

バルセロナ現代美術館(通称：MACBA/マクバ)

バルセロナの旧市街に突如として現れる真っ白な外壁の美術館。旧市街とのコントラストが強烈な印象を与える。建築デザインは、アメリカを代表する建築家の1人、リチャード・マイヤー (Richard Meier) 氏が手がけ、1995年開館。休館日は、毎週火曜日、12/25、1/1。開館時間は月・水～金曜日が11:00～19:30、土曜日は10:00～20:00、日・祝日は10:00～15:00と独自の開館時間の設定がなされている。料金は一般 7.5€、学生 6€。

同館の正面には広場があり、スケーターのメッカとなっており、若者が一日中スケートを行っている。すぐ隣りには、後述するバルセロナ現代文化センター (通用：CCCB) や大学の哲学科の棟などが隣接している。



MACBA外観



館内からみた広場の様子



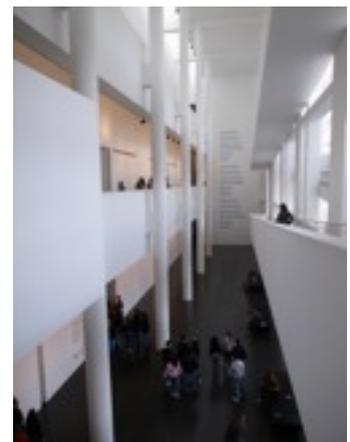
旧市街地から見えるMACBAの外観。歴史的な空気感の中に現代的な美術館が目立つ



館内。窓の外ではスケートボードの音がかすかに聞こえる。展示会の鑑賞の妨げにはならない。



入館者は入館証としてシールを受取り見えるところに貼る。日々、シールの色が変わる。



2階からの館内の様子。写真右側に美術館の正面・広場があり、左側に展示室がある。

MACBAの建物の向かいにMACBAアーカイブセンターがあり、同センター館長の マルタ・ベガ (Marta Vega／写真右、左は通訳・現地ガイドの坂本知子氏) にヒアリングを行った。スペインの経済状況の悪化に伴い、ヒアリング実施日の約1週間前には職員10%が人員削減のため解雇されるなど、訪問当時は、組織改革のただ中であつたが、組織編成は主に下記の通りとなる。

- ・アート (キュレーション／プログラム／テクニシャン)
- ・作品の保存
- ・アーカイブ
- ・広報 (Web)
- ・出版
- ・教育
- ・総務



MACBAの年間来場者数は、約50万人。コレクションは、館長と有識者で組織されたアドバイザー委員会によって作成されたリストを、バルセロナ市、カタルーニャ市、MACBA財団で組織された財団に提出して購入している。購入資金はMACBA財団より支払われるという仕組みになっている。

同館がある旧市街ラバル地区は、アーティストが多く住む地域であり、多民族で構成される。多様な文化的背景を持つ人々が暮らす地域において美術館のアウトリーチ活動は重要な事業となっている。例えば以前、サン・ジョルディの日に実施された「言葉の都市」というプロジェクト (招聘作家によるアイデアによるプロジェクト) では、「あなたの好きな言葉を教えてください」という質問を地元住民に尋ね、その言葉を街のあちこちの窓に展示するというものであつた。異なる言語で表示されることによって、ラバル地区の多民族性が浮き彫りになり、同地区のコミュニティについて、また同地区に住む人々がお互いの存在に気づき考えることができ、MACBAを中心に地域に波及して行くようなプロジェクトとなつた。

アウトリーチプログラムの一つとして美術館が外に出ていき学校と協働しながら実施するワークショップを行っている。アートを学ぶための資料と素材がセットになった教育キットを開発している。教育キットはスーツケースに入っており、それらを教育普及担当者が学校に持参し、その場でワークショップを実施し、アートに関心を持ってもらい美術館に来てもらうというもの。

地元コミュニティに対するプロジェクトを実施し、アウトリーチ活動も積極的に行っているMACBAだが課題点も多い。来場者の半数以上を観光客が占め、彼らの多くは同館の建築 (外観) だけを見て帰って行く。地元住民の来場は25万人以下。このような運営面の課題に対して、MACBAでは、家族向け、観光客向けなどターゲットのタイプ別に対応したプログラムを実施している。例えば、これまでは社会的弱者 (障がい者、高齢者) 向けの特別なプログラムはなかつたことが課題としてあつた。そこで、精神障害の患者向けのアートセラピーを実施した。これは、精神障害の患者とセラピストと一緒に作品を見て、関心を持った作品について、対話的な鑑賞を行っていくというもの。その他にも、現代アート以外の展覧会の実施、音楽フェスティバルや子ども向けのイベントなどを開催。そして、CCCBや近隣大学と連携して協働のイベントを実施し、ターゲットを絞って美術館運営を行う「マイクロ・パブリック」という運営を行っていることが分かつた。

MACBAアーカイブセンターは、2007年に開館した。ここでは、アート作品、作品に関する文書 (資料)、本 (アーティスト・ブック) の3種のアーカイブを行っている。近年これら3つの領域が曖昧になってきており、アーカイブが非常に難しくなつてきている。アーカイブは、アーティストからの寄贈のほか、所有権はコレクターにあるが、使用权をMACBAが持っているという保管方法などがある。現在、積極的にすすめているのが、展示・イベントのアーカイブであり、これまでMACBAで実施したイベント、展示については、その担当者が情報を個別に管理し保管していたため、現在それらを全て収集する作業をすすめているが、膨大な数の情報を整理しなければならない状況だという。EU諸国では、現在、美術館の展示の記録方法という課題について、各国が集まり勉強を進めていると伺つた。これは、日本国内の美術館のアーカイブ

機能を考える上でも参考になると考える。大分県立美術館の運営を考えていう上で、美術館のアーカイブ機能についても具体的な方針を作成しておくべきと、MACBAの実状から学ぶことが多かった。

【バックヤード、ライブラリーの様子】



アーカイブ書籍コーナー
日本の書籍もある。



写真家：荒木経惟の写真集



作家ごとのアーカイブ



ポスターの保管方法を見学



研究者などが使用できる特別なライブラリー



一般にも開放しているライブラリースペース

バルセロナ現代文化センター（通称：CCCB）

MACBAの敷地内に隣接するバルセロナ現代美術文化センター（通称：CCCB）。同センターに併設されているテラスやバーがイベントスペースとして使用されることも多く、映画、コンサート、フェスティバルなどが頻繁に行われている。MACBAの建築とは対照的に、現代的な建築とクラシックな建築をミックスした外観が特徴。現代的な建築物の方は、旧市街地が窓ガラスに映り込むように設計されており、住民からの評価が高いと言われている。ただし、残念ながら今回の視察では、外観のみの見学しかできなかった。

【外観など建物の様子】



赤丸の部分がCCCBの建物。中に広場があり現代的な建物がある。



中に入ると広場があり四方のうち三面を古く建築物が建っており、一面のみ現代的な建築が建っている。



右の現代的な建築と左の歴史的な建築物



左：CCCBへの入口。地下にスロープ伸び、建物の中に入っていく。
上：CCCBの隣りにある大学校舎

FilmoTeca フィルムセンター

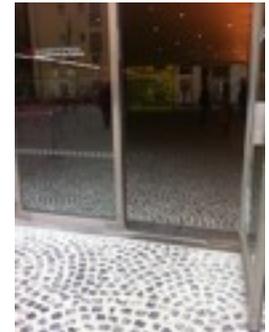
旧市街地ラバル地区に開館したフィルムセンター。同地区散策中に外観と内観を少し見学した。地域住民に気軽に立ち寄ってほしいという思いから、建物の床の塗装が中と外が繋がっているデザインが特徴。



内観。チケットセンターとショップ



建物の床と外の広場の床がつながっている構造。



外観。センターの周囲は旧市街地の建物。住民の生活空間の中に建てられている。

今後について

今回の視察ではNPO法人BEPPU PROJECTが以前から交流のあるナント市のジャン＝ルイ・ボナン氏や同市でアーティスト活動をおこなっているアーティスト：ベアトリス・ダッシャー（Beatrice Dacher）氏、ミシェル・ギャルソン（Michel Gerson）氏、ローラン・モリソー（Laurent Moriceau）氏とも再会。彼らもボナン氏と一緒に現地ガイドを行ってくれるなど、これまで築いてきた海外との関係性に支えられた視察となった。また今回、広瀬大分県知事、大分経済同友会と共に具体的な欧州文化創造都市の都市政策を視察することで、各都市の主要な関係者と新たな交流を生むことができた。バルセロナではNPO法人BEPPU PROJECT職員2名で視察を行い、美術館やアートセンターのコミュニティとの在り方など美術館関係者からヒアリングできたことは大きな収穫となった。今後は、欧州の創造都市にとどまらずアジアの先駆的な創造都市も含めて創造都市について学びを深めて行き、大分県立美術館をハブとした県内各地域との広域連携のネットワークづくりを進め、新たな広域連携による都市モデルの構築を実現していきたいと考えている。

創造都市研究会事業

滞在期間：2012年4月3日(火)、5月24日(木)

実施場所：大分県大分市

事業概要と目的

国内外の創造都市の取り組みについて学び、大分県における創造都市の在り方について考えるため、三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター 兼 経済・社会政策部主席研究員／センター長の太下義之氏を講師として招聘し、フランスのナント、スペインのビルバオ、バルセロナの3都市を中心に、欧州の文化創造都市について創造都市研究会「欧州視察事前勉強会」を実施した。また、平成27年に完成予定の大分県立美術館をハブとした、文化を支柱とする県内全域の広域連携を目指すため、キュレーターの住友文彦氏（現 アーツ前橋館長 2013年1月より）を招聘し、都市における美術館の役割について講演いただき、創造都市における美術館という機能の可能性とその役割について学んだ。

日程と内容

4月3日(火)	<p>欧州視察事前勉強会「欧州の創造都市 ナント、ビルバオ、バルセロナ」</p> <p>講師：太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター 兼 経済・社会政策部主席研究員／センター長)</p> <p>「創造都市」の概念から、大分経済同友会の欧州アート・交通まちづくり視察で訪れる予定のフランスのナント、スペインのビルバオ、バルセロナの都市政策、文化政策、創造産業について学びを深める事前勉強会を実施。各都市の歴史的背景から経済、交通など具体的な数値と共に学ぶことができ視察のポイントなどを整理することができた。</p> <p>参加人数：22名 ※ 講演の発表スライドを、別添している。</p>
5月24日(木)	<p>大分経済同友会5月例会 講演</p> <p>講師：住友文彦（キュレーター／現 アーツ前橋館長 2013年1月より）</p> <p>キュレーターであり、群馬県前橋市内にある旧商業ビルを改修し建設された芸術文化施設「アーツ前橋」（2013年10月開館予定）の設立に初期から関わってきた住友文彦氏を講師に迎え、都市における美術館の役割・機能について、アーツ前橋の設立のプロセスなどを具体例に講演いただいた。</p> <p>アーツ前橋は、2007年から同市の美術館構想として始まったが、2012年2月の市長選の際に従来の絵画の展示を中心とする美術館の在り方が議論され、従来の美術館としての機能だけでなく、市民のための文化芸術活動の拠点として再構想された経緯がある。そして、美術を中心に音楽やダンス、演劇など多様なジャンルのアートを発信していく施設として生まれ変わった。また、「市民に開かれた美術館」とはどういう美術館なのかという根源的な問いに対しても「10の問題提起く首長の方々へ」(財団法人地域創造著「これからの公立美術館のあり方についての調査・研究」より引用)を用いて講演いただき、大分県立美術館の設立において参考となる事例を伺うことができた。</p> <p>参加人数：85名</p>

研究会の様子



太下義之氏 講演の風景



住友文彦氏 講演の風景

創造都市連携事業紹介誌発行事業

発行日：2012年9月7日(日)

事業概要と目的

「観光地型・文化芸術創造都市」を推進するために、2012年秋に別府市内で開催された国際芸術祭、別府現代芸術フェスティバル2012「混浴温泉世界」（以下、混浴温泉世界2012）やベップ・アート・マンス2012の紹介と共に、同時期に大分県内の市町村で開催された文化芸術に関する催しを紹介する冊子を発行した。様々な地域で文化芸術の取組が行われていることを伝えることで、大分県観光の目的のひとつとしてアート鑑賞を位置づけてもらいたいと考えている。また、別府は大分県内の中でホテルや旅館などの宿泊拠点数が最も多い地域であり、周辺地域の情報を集約し発信していき、別府を経由してそれらの地域を訪れてもらうことで、別府にとってもメリットが見込まれる。特に今年度は国際芸術祭が開催されたため、別府に対する県外からの注目度も高く、親和性の高い事業であった。

そして「大分県内の文化芸術を楽しむ」という視点から制作物の内容を再考察し、当初予定していた200ページで有料の冊子ではなく、多くの人が情報に触れることができる情報媒体として活用してもらうために、媒体を無料とし、またページ数を減らしコンテンツを絞り、その分印刷数を50,000部と大幅に増加させた。以上のことから、最終的な仕様は下記のとおりとなった。

仕様：A3、4C+4C、16ページ 70,000冊

料金：無料

配布箇所：全国のアート関係施設、大分県の県外広報イベントでの配布、混浴温泉世界2012インフォメーションセンター、別府市内ホテル（約20箇所）、市内飲食店、連携プログラム開催地域周辺エリアなど

内容：ハブとなる別府での事業（混浴温泉世界2012とベップ・アート・マンス2012）を特集ページとする形で、合わせて近隣の取組も掲載し、期間限定のアートガイドマップを作成した。

実施効果と今後について

冊子を無料配布に変更したことで、大分県とアートというこれまでは一部の人にしか馴染みのなかったつながりを多くの人に伝えることができた。特に、2015年には新しい美術館が設立される前に、大分県内の様々なところで、芸術文化を体験できるという認知を広めていくことは重要なことであると考えている。

紙面の内容については情報を精査する中で、文化芸術の情報に偏ったところがあり、もう少し地域情報を盛り込んでほしかったという意見もあり、掲載情報のボリュームと内容については改善の余地があると思われる。しかし、こうした文化芸術の切り口で地域を紹介していくことはこれまでとは違った観光のあり方を提示することに繋がると思っており、今後も継続し発展させていけるか検討して行きたいと考えている。

3. 事業評価

事業評価・分析の方法としては、国内外（とくに米国）の企業・自治体等で戦略マネジメントツールとして広く採用されている戦略マップとバランス・スコアカード（BSC）を取り入れた、これに基づき、実行委員会のメンバーをはじめとする関係者間での目標や課題の共有化に努めるとともに、PDCAサイクルに基づくマネジメントの徹底化を図った。評価・分析ならびに、学識経験者、地域住民、メディア、有識者、および金融機関関係者により構成された評価委員会は次の通りである。

評価・分析プロセス

1. 実行委員会による事業実施に関するアセスメント（自己点検）
2. アセスメント結果の評価委員会への報告
3. 評価委員会によるレビュー（分析・評価）とそれに基づく意見表明（是正勧告等）
4. 実行委員会から評価委員会への改善案等の提示
5. アセスメントおよび評価委員会報告書の作成とステークホルダーへの公開

評価委員会

[学識経験者] 椋野美智子（大分大学 副学長）

[有識者] 高橋鶴子（聴潮閣高橋記念館 館長）

[メディア] 宮崎和恵（おおいたインフォメーションハウス株式会社 取締役社長）

[地域住民] 野上康生（野上本館 代表取締役社長／別府市議会議員）

[金融機関関係者] 佐野真紀子（日本政策投資銀行 大分事務所）

当報告書では、評価・分析プロセスの内1－3の内容をまとめて記載する。そして4、5のプロセスに関しては、当報告書の提示と公開を持って実施するものとする。また1－3の事業評価の記載は次ページのバランススコアカードの項目に沿い、「地域再生の視点」「財政の視点」「ステークホルダーの視点」「マネジメントの視点」「創造と学習の視点」に分けて行った。

3-1. 事業バランススコアカード

「混浴温泉世界2012」「ベップ・アート・マンス2012」のバランス・スコアカード(BSC)

キーワード	業績評価指標	2011年実績 (現状値)	2012年目標 (事業終了時の目標値)	2012年実績 (事業終了時の結果数値)
地域再生の視点:別府における諸課題の解決	・アート・マンス入場者数	・のべ11,751名 (1ヶ月の開催)	・のべ17,000名以上 (2ヶ月の開催)	・のべ53,987名 (2ヶ月の開催)
	・混浴温泉世界入場者数	・のべ90,000名 ※注1	・のべ100,000名以上	・のべ117,348名
	・アート・アワード鑑賞者数	・871名	・1,000名以上	・1,643名
	・アート・マンス 参加プログラムの質	・満足度 ※注2 来場者95% 実施者100%	・事務局のコンサルテーションにより質の改善、底上げを図る。	・満足度 ※注2 来場者94% 実施者99%
財政の視点:財政基盤の確立	・アート・マンス チケット販売枚数	・13,656枚(=13,656BP)	・30,000枚(=30,000BP)	・30,569枚(=30,569BP)
	・創造都市記録誌販売数	・0(未発行)	・500冊	・70,000冊 (無料配布に変更)
	・協賛金・各種助成金の額・件数	・15件(10,329千円、拠出金含まず)	・30件(30,000千円、拠出金含まず)	・32件(69,364千円、拠出金含まず)
ステークホルダーの視点:「観光地型・文化創造都市」プラットフォームの造成	・ボランティア参加人数	・のべ206名 (アート・マンス期間中)	・のべ350名 (アート・マンス期間中)	・のべ660名 (アート・マンス期間中)
	・県内他地域での文化事業の実施数(混浴温泉世界開催時の他地域連携自治体数)	・特になし ※注1	・2市町村	・2市町村
マネジメントの視点:実行体制の確立・強化	・実行委員会の活性化/出席率	・平均約5割 ※注3	・役割分担の明確化	・平均約6割 ※注3
	・事務局業務の質	・事務局への満足度80% ※注4	・標準化された業務遂行	・事務局への満足度82% ※注4
創造と学習の視点:文化芸術の持つ創造性の寄与	・アート・マンス参加団体/プログラム数	・57団体および個人/87企画(1ヶ月の開催)	・90団体・個人/130企画以上(2ヶ月の開催)	・122団体・個人/148企画(2ヶ月の開催)

「平成24年度文化庁文化芸術創造都市モデル事業」提出資料に、2012年実績などを加筆

※注1) 「混浴温泉世界」に関する指標のため、現状値は2009年のもの。
※注2) 来場者アンケート、実施者アンケートで、ベップ・アート・マンスの評価を「大変よい」+「よい」とした回答の割合。
※注3) 2011年は6～11月に開催した全4回の実行委員会、2012年は5～9月に開催した全3回の実行委員会の出席率の平均値を記入。なお、委任状提出によるみなし出席は算入していない。
※注4) 実施者アンケートで、事務局業務を「大変よい」+「よい」とした回答の割合。

表2に掲げたBSCのうち、緑色で表示した一番右側の列が今回の実績である。なお、表2では、各業績評価指標に関する2011年の実績値（「混浴温泉世界 2012」関連の指標については、前回開催時である2009年の実績値）を補足している。

3-2. 実行委員会による事業実施に関するアセスメント（自己点検）

(1) 創造と学習の視点

創造と学習の視点は、「ベップ・アート・マンス」のプログラム実施者となった市民らが、文化芸術に関わる自らの創造性をいかに高めることができたかを見るものである。こうした学習を通じて、彼らが地域における他の諸課題に対しても創造的な解決を行っていくことが期待される。このように創造と学習の視点は、すぐれて未来志向、成長志向の視点といえる。

「ベップ・アート・マンス」は、より多くの市民が参加しやすい仕組みを作ることを最大の目標としていた。すなわち、市民がアートの鑑賞者に留まらず文化芸術活動の表現者・担い手の一員として参画することを通じて、自らの創造性を発揮・拡張させることが目指されている。

創造と学習の視点に関するターゲットとしては、「ベップ・アート・マンス 2012」への参加団体・個人数、プログラム数を設定した。従来の「ベップ・アート・マンス」の開催期間が1ヶ月であったのに対して、「混浴温泉世界」との同時開催となる今年度は開催期間が2ヶ月となるため、2011年実績（57団体・個人、87企画）を大きく上回る目標（90団体・個人、130企画）を設定したが、実績（122団体・個人、148企画）は当該目標値をさらに上回る結果となった。

プログラム実施者へのアンケートによれば、過去の「ベップ・アート・マンス」への参加経験を持つ参加者が33%であるのに対して、今回初参加の団体・個人が67%と2/3を占めており、新たな参加者を呼び込んでいる。

また、今回のプログラム実施者の81%は来期の「ベップ・アート・マンス」にも参加したいと回答しており、持続可能な市民の文化芸術活動の場として、「ベップ・アート・マンス」が機能していることが窺える。自由記入欄を見ても「一度試しに出てみたので、次回は本気で取り組みたい」「すでに来年の計画をしている」「自らの企画を通じて別府のすばらしさを伝えていきたい」など、前向きな意見が寄せられている。

(2) マネジメントの視点

マネジメントの視点、ステークホルダーの視点は、主に事業の実施プロセスを評価するもので、事業実施のあり方に現在進行形でメスを入れていくことになる。

このうち、マネジメントの視点では、当実行委員会による実行体制の確立強化を目指し、事務局業務が効率的・効果的に遂行されていたか否かの評価を行う。当該業務の質はプログラム実施者へのアンケートによって評価することとしている。また、実行委員会に関しては、役割分担の明確化することで円滑な運営を図ることとした。

「ベップ・アート・マンス 2012」のプログラム実施者へのアンケートの集計結果によれば、事務局業務に対する満足度は82%と高く、2011年の水準(80%)を維持しえた。「混浴温泉世界」との同時開催となった2012年は、例年以上に事務局業務が繁忙を極めたことを思えば、全体的には及第点といえるのではないかと。但し、個々の業務を見ると、広報業務代行に効果があったとの回答は増加(2011年86%→2012年91%)する一方、受付業務代行、チケット販売協力についての満足度はやや低下(2011年95%→2012年80%)している。

実行委員会の出席率は平均して約6割と、2011年の約5割を若干上回る水準となった。事務局の専従スタッフと異なり、実行委員は本業のかたわら委員会に出席するため、全員の日程調整が難しい面がある。このため、全体会合と並行して、検討テーマ毎に複数の部会を設けて随時開催を行うことで役割分担の明確化を図った。

(3) ステークホルダーの視点

創造と学習の視点ではプログラム実施者、マネジメントの視点では主催者である実行委員会の内部体制が問われたが、「混浴温泉世界 2012」「ベップ・アート・マンス 2012」の同時開催に際しては、他にも数多くのステークホルダー(関係者)の協力を得る必要がある。別府において「観光地型・文化芸術創造都市」のプラットフォームを形成するためには、多様なステークホルダーとの協力体制を確立することが不可欠である。

BSCでは、両事業をサポートするボランティアの参加人数、県内他地域の文化事業で連携した自治体数を業績評価指標に採用している。

このうち、前者のボランティア参加人数については、350名をターゲットに設定したが、実績は660名となり、目標を大きく上回った。「ベップ・アート・マンス」は通常、プログラム実施者である市民が自らプログラムを実行するため、ボランティアは比較的少数で足りる事業構造となっている。これに比べて、市内各所で招聘アーティストによる多彩なアートプロジェクトを同時展開する「混浴温泉世界」では、総合インフォメーションセンター(別府駅構内)や各会場の受付業務、事務局業務のサポートをはじめ、多数のボランティアを動員することが必要となる。今回参加したボランティアの多くは、後者の業務に協力いただくこととなった。なお、総数としては目標を上回ったものの、平日は学生・社会人の参加が難しく、必要なボランティア人数の確保に苦労した期間もあった。このため往々にして、事務局スタッフが自ら会場受付を担当するケースも多く見られた。しかしながら、「混浴温泉世界」「ベップ・アート・マンス」を円滑に運営するうえでは、専従スタッフは極力、両事業全体に係る企画・調整業務に従事するのが効率的・効果的である。次回の「混浴温泉世界」開催に向けて、受付業務を中心としたボランティアの確保は課題といえよう。

後者の連携自治体数については、2自治体をターゲットに設定した。実績としては、「混浴温泉世界 2012」の会期中である11月に国東半島で開催された「国東半島アートプロジェクト 2012」と連携を図るこ

とができ、2自治体（アートプロジェクトの会場となった国東市、豊後高田市）との連携という目標を達成した。さらに、自治体以外の個別の文化施設やアートプロジェクトにおいて、大分市（大分市美術館、アートプラザ、県立美術館まちなか支局など）、由布市（由布院駅アートホール、市内ギャラリーなど）、福岡県糸島市（「糸島芸農」）、熊本市（熊本市現代美術館）、鳥取県（「暮らしとアートとコノサキ計画」）、北九州市（「『ORIGIN』+『ORIGIN part2 -BSS-』」「街じゅうアートin北九州2012」など）との連携を図ることができた。これらの施設・プロジェクトを「旅手帖 beppu」に掲載・広報するとともに、「混浴温泉世界」パスポートを持参することで特典を受けられるサービスを付加することで、広域連携を図った。

（４）財政の視点

民間の企業経営に用いるBSCでは、財政の視点において損益・財政面の評価などを行う。民間企業の場合、利益や良好な財務体質の確保は極めて重要な目標である。但し、企業の財務諸表は過去の損益・財政状況を示すものに過ぎず、足元の利益に過度に囚われて、マネジメント（内部プロセス）、ステークホルダー（顧客）の視点に係る現在の改善活動や、創造と学習の視点からの未来に向けた人材育成投資を怠ると、中長期的にはむしろ利益を損なう懸念もある。このため、BSCに基づく戦略的経営では、これらの諸視点に係る指標をバランスよく見ながら、企業を上手に経営していくことが求められるが、それでも最終的に重要視されるのは、中長期的な利益の最大化という財政の視点である。

これに対して、当事業のような地域再生プロジェクトでは、主催者が儲けることが一義的な目的ではなく、地域に対するさまざまな外部効果（創造的人材の育成・誘致、まちなかのにぎわい創出、経済波及効果など、主催者に限らず地域全体が享受する効果）が最終目的となる。このため、「混浴温泉世界」「ベップ・アート・マンス」のBSCでは、最終的な目的として、後述するような地域再生の視点を別立てしている。

以上のような背景から、財政の視点では、金銭面で把握・評価できる範囲の外部効果として、BPの販売枚数30,000BP（1BP＝100円）を目標に設定している。ちなみにBPは金券であって、販売枚数が増えたからといって主催者である実行委員会の利益増につながるわけではない（1,100円分に相当する11BPのクーポン型金券を1,000円で販売するためむしろ負担増になる）。それにも関わらず、実行委員会がBPを発行するのは、ディスカウントした金券を販売することで、「ベップ・アート・マンス」の有料プログラムや「混浴温泉世界」への来場者の参加を促すと同時に、加盟店における消費も拡大させるという、地域への波及効果を目指すからである。

30,000BP（300万円）という目標値は、2011年のBPの販売枚数13,656BP（137万円）の2倍強に相当する。「ベップ・アート・マンス」の開催期間が2倍となり、「混浴温泉世界」との同時開催となることを念頭に置いた目標設定であったが、実績は30,569BP（306万円）となり目標を達成することができた。BPを導入した初年度である2010年の販売枚数が2,760BP（28万円）であったことを踏まえれば、BPの定着が進みつつあると考えられる。

但し、「ベップ・アート・マンス 2012」の来場者アンケートによれば、BPを飲食店などで利用した人の割合は15%となり、2011年の27%から低下している。プログラムの実施者側のBPへの評価（有料プログラムにBPで支払いができることの評価を「大変よい」+「よい」とした回答の割合）も、69%から46%へと低下した。「混浴温泉世界」との同時開催による業務量増加の中で、BPの広報・販促活動に十分な工数を避けなかった面があるかもしれない（例えば、前売り券の販促活動は今回、BPではなく「混浴温泉世界」のパスポートが主な対象であった）。もっとも、利用者の割合が低下したとはいえ、参加団体数が約2倍、来場者数が約5倍に増えたため、BPを評価・利用する人は、実数としては着実に増加しており、それがBP販売枚数の拡大につながっている。一方で、新たな団体・来場者が増加する中、そうした新しい参加者にBPを周知させていく取り組みが重要であろう。

ちなみに「混浴温泉世界 2012」来場者のBP利用割合は31%と「ベップ・アート・マンス 2012」を上回った（「混浴温泉世界 2009」当時はBP未導入のため、前回比較はできない）。市民中心の「ベップ・アート・マンス」よりも、遠隔地からの来場者が多い「混浴温泉世界」のBP利用割合が高いのはいささか意外である。後者は多くが有料プログラムであること（BPでパスポートやココダケ券を購入可能）に加え

て、後者の来場者はほぼ必ず総合インフォメーションセンターに立ち寄るため、そうした場を通じたBPの周知が奏功したのかもしれない。

来場者がBPでパスポートを購入する場合、BP11枚綴りセット2冊を購入して、20BPをパスポート代(2,000円)として支払い、残る2BPを飲食店などでの支払いに充当する。とはいえ、2BP(200円)では飲食物販に足りないため、来場者はBPに足して現金を支出することになる。すなわち、BPは、実際の使用枚数よりも大きな消費を誘発していると評価できよう。加えて、BPではなく現金を使用する来場者も未だに多く(「混浴温泉世界」来場者の69%、「ベップ・アート・マンズ」来場者の85%)、また、「混浴温泉世界」来場者の57%は別府などに宿泊しているが、現状、BPに加盟している宿泊施設は数えるほどしかない。このため、そうしたBPの外数となる消費も勘定に含めれば、今回の事業が誘発した経済波及効果はさらに大きいといえよう。

そこで、「混浴温泉世界 2012」「ベップ・アート・マンズ 2012」の経済波及効果について、一定の仮定のもとで試算したところ、約3億3,800万円の観光消費を誘発したとの結果が得られた。こうした観光消費のうち、両事業の収入となるのは「混浴温泉世界」のチケット販売収入1,400万円などごく一部であり、多くは市内の宿泊施設、飲食店、商業施設、温泉施設などの収入になったと考えられる。ちなみに、「混浴温泉世界 2009」における経済波及効果は、当時の試算によれば5,000万円であった。1人当たり消費単価の設定など試算方法が今回とは異なるため、単純な比較はできないが、「混浴温泉世界」「ベップ・アート・マンズ」が定着してきたことで、地域への波及効果も拡大してきたものと考えられる。

以上のように地域への波及効果が目的として重要ではあるが、「混浴温泉世界」「ベップ・アート・マンズ」を持続可能な取り組みとして続けていくうえでは、事業自体の安定的な財政基盤の確立が重要なことは言うまでもない。こうした観点から「混浴温泉世界 2012」のチケット販売収入実績を見ると、鑑賞券販売枚数10,630枚(パスポート7,667枚、ココダケ券2,963枚)、収入1,642万円となった。ほぼ知名度ゼロからスタートした「混浴温泉世界 2009」のパスポート販売枚数3,012枚と比較すれば格段に伸び、今回の目標である販売枚数10,400枚(パスポート10,000枚、ココダケ券400枚)には届いたが、パスポートの販売比率が当初より低く収入1,708万円には及ばなかった。

一方、BSCで目標に設定した協賛金・各種助成金の額・件数の実績は、32件、6,936万円となり、前回実績の15件、1,033万円、目標値の30件、3,000万円を大きく上回った。

また、BSCでは創造都市記録誌を作成して有料で販売することを想定(販売目標500冊)していたが、その後の検討の中で、無料にして発行部数を増やすことで、多くの人々に大分県内でのアートプロジェクトの取り組みを知ってもらおうという狙いに方針転換を行った。具体的には「ARTRIP 特集 混浴温泉世界」という冊子を70,000部印刷し、県内外への配布を行った。このため、評価項目としては、当初想定していた財政ではなく、主にステークホルダーの視点に寄与する項目にシフトしたと考えられる。かかる視点から見ると、同冊子は、全国各地で広く配布されるとともに来場者にも配られることで、「混浴温泉世界」をはじめとする県内のアートプロジェクトを広報するうえで重要な役割を担ったといえよう。

(5) 地域再生の視点

地域再生の視点では、前述の4つの視点を踏まえつつ、「混浴温泉世界」「ベップ・アート・マンズ」が別府におけるさまざまな地域課題の解決に寄与しえたかという観点に関する評価を行う。

このため、別府の新しい魅力の創出を通じた交流人口の増大、中心市街地の回遊性の改善を評価するターゲットとして、「ベップ・アート・マンズ」入場者数と参加プログラムの質、「混浴温泉世界」入場者数、「ベップ・アート・アワード」鑑賞者数を掲げている。

「ベップ・アート・マンズ 2012」の総入場者数は53,736名となり、2011年実績(11,751名)の4.6倍、目標(17,000名)との対比でも3.2倍となるなど、目標を大幅に超過達成した。但し、創造と学習の視点で述べたように、「ベップ・アート・マンズ」の最大の目的はアートの担い手としての市民参加を進めることにあり、入場者という受け手の数の増加を過度に高評価することは控えたい。もちろん多くの来場者を迎えることは、実施者の大きな励みとなるものであり、こうした観点から入場者の増加を喜びたいと思う。また、来場者数という量に加え、「ベップ・アート・マンズ」の質の面においても、高い評価(「ベップ・アート・マンズ」に参加した感想として、「大変よい」+「よい」との回答の構成比が、来場者アンケートで94%、実施者アンケートで99%)が得られた。

一方、「混浴温泉世界」については、広域から観光客を誘致することで、別府の新たな魅力を全国発信することが、市民参加や人材育成と並んで大きな目的である。ゆえに、入場者数という業績成果指標の持つ意義は、「ベップ・アート・マンス」よりも重要と考えられる。「混浴温泉世界」の入場者数については、2009年の入場者実績9万人に対して、2012年の目標を10万人に設定したが、実績は117,348人となり目標を上回るものとなった。

実際に来場した人数と同時に、別府が「観光地型・文化芸術創造都市」として全国に情報発信され、地域ブランド力が向上するという定性的効果も重要である。こうした情報発信力を客観的・定量的に評価するうえで、業績評価指標には掲げていないが、広報活動の展開によるメディアへの掲載件数とそれらの報道の広告換算の結果を見てみたい。これによれば、2010年の61件、約1,200万円、2011年の91件、約7,700万円に対して、今回は335件、約4億6,500万円と大きく増加した。例年の「ベップ・アート・マンス」に加えて「混浴温泉世界」が同時開催となったことから、地元メディア（大分合同新聞、西日本新聞、今日新聞、全国紙の地方面、大分ローカル局の地方版ニュースなど）はもちろん、全国メディア（NHK、日本経済新聞などの全国版や、「ジパング倶楽部」「クロワッサン プレミアム」「BRUTUS」などの全国誌）でも別府の取り組みが報道された成果といえる。

但し、前回の「混浴温泉世界」のメディア露出広告換算は約28億7,000万円と今回を大きく上回っていた。もっとも、このうち約24億4,500万円はNHK(Eテレ)の「日曜美術館」での特集(45分×2回)によるものである。事務局として、集客力を向上させるうえでも、こうした全国的な影響力を持つメディアに取り上げてもらえるよう引き続き努めていく必要はある。とはいえ、2009年の実績が「日曜美術館」という単発の幸運に恵まれた面は否定できず、これを毎回のハードルとするのは厳しい。そうした意味では、今回の結果が「混浴温泉世界」による地域ブランド力向上効果の一つのメルクマールになるのではないかと考える。

「ベップ・アート・マンス」については、代表的な登録プログラムの一つである「ベップ・アート・アワード 2012」の鑑賞者についても、目標値を設定している。当プログラムの会期は前回・今回とも1ヶ月弱と変化がないことを踏まえつつ、「混浴温泉世界 2012」との同時開催による相乗効果も鑑みて、2011年実績871名に対して、1,000名を目標としたが、今回の実績は1,643名と前回実績の1.9倍、目標の1.6倍となった。作品自体の持つ力はもちろんであるが、従来の「ベップ・アート・マンス」入場者に加えて、「混浴温泉世界」を目標て来た観光客の一部が、当プログラムにも立ち寄ったことで相乗効果が生まれたものと推測される。

以上では、入場者数を中心に、事前に設定したターゲットを達成できたか否かを検証した。しかしながら、別府の地域課題の創造的解決への寄与という最終目的に照らせば、会期中の来場者数はあくまで短期的目標に過ぎず、中長期的には、別府における創造的人材の育成・誘致や、会期中に止まらない別府全体の交流人口の拡大こそが重要なインパクトといえる。こうした目標を短期的に評価することはたいへん難しいが、参考指標として、「ベップ・アート・マンス」の来場者アンケートにおいて「来年はプログラム実施者として参加したいか?」という質問に対して、23%の来場者が「はい」と答えたことを挙げておきたい。前回の48%よりは低下したものの、来場者が約5倍に増えたことを踏まえれば、希望者の実数はむしろ増えているとも受けとめられる。そもそも前回アンケートで「参加したい」と答えた人々の一部が今回参加したことで、参加団体・個人数の倍増という結果をもたらしたのであり、それにも関わらず、潜在的なプログラム実施者がまだ来場者の23%いるということは、別府の大きなポテンシャルといえる。

こうした人々が将来、別府の文化芸術活動や市民活動に積極的に参画することで、最終目的である別府の創造性向上につながっていくだろう。そして彼らの存在は、今後の「混浴温泉世界」「ベップ・アート・マンス」を担う地域インフラともなる。彼らがプログラム実施者として参画することで「地域再生の視点」はふたたび「創造と学習の視点」へと回帰し、創造都市実現に向けた好循環が描かれることが期待される。

3-3：評価委員会によるレビュー（分析・評価）とそれに基づく意見表明（是正勧告等）

評価委員会は実行委員会スタッフがBSCならびに、上述したアセスメントを説明する形で開催された。会議の中で評価委員会から出された意見を下記にまとめる。

- ・事務局運営について、連絡の不足や遅さを指摘する意見が一部のプログラム実施者から寄せられており、改善策を講じる必要がある。特に受付業務代行・チケット販売協力への満足度もやや低下しているという事実を踏まえた、改めて質の高い対応を行うために必要なことを考え、例えば業務の絞り込みなども検討してもいいのではないか。
- ・特に平日のボランティア確保に苦労したことを踏まえて、次回開催に向けてボランティア団体とのパートナーシップ構築など、具体的な改善を図る必要がある。
- ・BPの利用者は実数としては増えてきているものの、新たな取扱者が増えたことから認知の度合いが低下しているのではないだろうか。次回はBPのPRを見直し、その利便性を伝えられるかを考えなくてはならない。また、BPのシステム自体（例えばBPの回収システムや、換金率など）が規模の拡大に適応していないのではないか。そうであればこのあたりはシステムを再構築し、改善が求められる。
- ・「ベップ・アート・マンス」のポスターとパンフレットの納品は前回に比べて前倒しできたものの、「混浴温泉世界」のアートプロジェクト会場確定が直前までずれ込んだため、来場者が予定をたてづらかった。観光地での開催ということであれば、航空券が安く手に入る2ヶ月前などを目安に広報物を作成していく必要がある。
- ・来場者アンケートの回収枚数が少なかった。その理由として、アンケート用紙の配布や準備の遅れと、実施者へのアンケート実施の周知の不足が挙げられる。300枚程度のサンプルがあれば相当程度の分析は可能であるが、来場者アンケートは「ベップ・アート・マンス」の今後のあり方を考えるうえで貴重なデータであり、その精度を上げていくことは重要である。このため次回は、各プログラムの実施者に来場者アンケートの配布・回収を促し、かつ具体的に回収できるためのスキームをつくることが望まれる。
- ・会期直前にウェブサイトやfacebookなどのメディア更新が遅れがちな時期があった。現場対応に時間を使われるのはわかるが、見てくださるお客様が初めてプロジェクトが成立するということを考えると優先順位を高めて、作業の割り振りをしなければならない。
- ・「混浴温泉世界」と「ベップ・アート・マンス」のサイトの相互関係をもう少し強化してもよかった。また、制作した冊子に掲載した他地域の取組とも広報協力の点でもっと具体的な活動がしかけられたと思うので、そのあたりを今後も継続して考えて、具体的な取組に落としこんでほしい。
- ・大分県立美術館の完成も迫ってきていることを考えると、広域的に様々な取組をつなぎ相乗効果を生み出していくことは重要である。そのためにも、丁寧な取組で着実に足場を固められるように、運営体制の構築やパートナーシップの構築に力を入れていってほしい。

3-4：事業統括

平成23年度より継続して行った本事業は、「観光地型・文化芸術創造都市」をキーワードに発展させ、別府市における創造都市の活動と共に他地域の文化芸術の情報も含めて県外に発信していくなど、新たな取組を行った。また、本事業の一環で広瀬大分県知事や大分県内の経済関係者とともに欧州の創造都市への視察を行い、各地域の行政関係者などからのヒアリングや交流が図れたことは大きな意味を持つ。これらの取組の成果もあり、間もなく建設が始まる大分県立美術館の考え方の中にも創造都市についての言及がなされるなど(大分県芸術文化ゾーン創造委員会による検討結果報告書・最終答申に記載。それを大分県が受けて美術館の位置づけが定まった)、大分県の政策として文化芸術創造都市の考え方が取り入れられつつある。

今後、別府市や大分県立美術館がハブとなり、県内他地域の文化芸術活動の育成支援や連携を深めることで、広域的ネットワークによる文化創造都市の新たなクラスターモデルを構築し、全国、そして世界に向け大きく発信していきたい。